



保健師職能委員会だより



平成31年2月

平成30年度保健師職能集会 12月22日(土) 10時~15時 参加者44人

テーマ：地域に責任を持つ地区活動の実践

【講演】地域に責任を持つ保健師活動の実践 ～保健師活動指針の目指す姿～

講師：中板郁美 先生（武蔵野大学看護学部教授）

【実践報告】

①野洲市における妊娠期からの切れ目のない支援体制

報告者：野洲市健康推進課 山下亜希代 さん

②住民とともに作る認知症介護予防サポーター

報告者：甲賀市信楽地域包括支援センター 北嶋あゆみ さん

【グループワーク】地区担当制による地区活動の実践について



【中板先生からのメッセージ】

- ・地域づくりは保健師の仕事。事業に振り回されているなら、なおさら、ソーシャルキャピタルをしっかりとすることが大切。
- ・保健師活動の本質は、ソーシャルワーク的思考と公衆衛生的思考の両方を持ち合わせる必要がある。目指すのは人々の健康。

【山下さん】

- ・野洲市では地区担当制と業務担当制を併用。
- ・母子については母子保健部会（野洲市地域医療あり方検討会）で関係機関が協議する場があり、情報誌を共同で作成することで、総合的な支援情報が届けられるようになった。
- ・妊産婦包括支援事業として、乳幼児健診前に地区担当からの情報をもとにスタッフ間で事前の共有と結果の確認を実施。
- ・産後ケア事業として、ネットワークにつながった事例について紹介。

【北嶋さん】

- ・甲賀市では、全世代型地域包括支援センターとして、地区担当制を実施し、業務担当と連携して活動。
- ・認知症介護予防サポーター（ボランティア）を育成することによって、脳トレ教室など、地域住民を巻き込んだ事業を展開。（認知症は予防していけるという啓発）
- * H29 中堅コンサル研修に参加後、住民とともに取り組んだことを発表
- * ヘルスピーリーフモデル：住民に「何とかしなくてはいけない」という思いを持ってもらい、「これならできるかもしれない」という具体的でメリットが見える実践案の提案が必要。

【グループワーク】

地区担当制による地区活動の実践（組織の地区担当制の紹介と地区活動を推進していくために工夫していること）について話し合いました。

- ・各地区担当が活動報告し、刺激が受けられるように工夫している。
- ・地区担当がケース割だけになっていないか？
- ・地区のデータを整理して、住民や関係機関と情報共有している。

【感想・みんなの声】

いろいろな地域に出向いて、住民の声を拾い集めるように実践したい！

業務に追われている毎日だが、本来の目的を忘れないように明日から頑張りたい！

住民の声を丁寧に拾ったり、見える化することの大切さを改めて確認した。

地域に何度も足を運ぶことで、地域に愛着が持てる♡



平成30年度滋賀県統括保健師会議および研修会 1月23日（水）参加者32人

テーマ：地区担当制による地区活動を進めるための統括保健師の役割

<講演> 健康なまちづくりをめざして ～保健師の専門性をつなぐ統括保健師～

講師：中板育美 氏（武蔵野大学看護学部教授）

<報告>

①地区担当制と統括保健師の役割

報告者：滋賀県健康福祉部医療政策課 保健師活動アドバイザー 大林豊子 氏

②地区担当制による地区活動を進めるための統括保健師の役割

報告者：長浜市健康福祉部健康推進課 横田留里 氏

<グループワーク>

それぞれの市町での状況や課題を話す中で、統括保健師（補佐）として、どのような役割を果たせばよいかということ意識して意見交換ができました。

【アンケートの声から】

- ・PDCAを回すための統括保健師の役割がわかりました。
- ・統括保健師1人で頑張るのではなく、統括補佐と共にこれからの人材育成や保健師活動について進めていきたい。
- ・統括としての組織の中での役割を明確にして、改めて「やらなければ！！」と思いました。

今年度は保健師能集會に引き続いて、統括保健師研修でも地区活動の実践をテーマに学び、語り合うことができました。統括としての役割を再認識できる機会となりました。

